

ちば経済フラッシュ

「ちば経済フラッシュ」は3、6、9、12月号に掲載します

千葉県経済の動き —中小企業動向を中心に—

概況

県内経済は、全体としては引き続き緩やかに回復している。

千葉経済センターの「千葉県企業経営動向調査」(07年3月実施)によれば、07年1～3月期の業況判断BSIは、非製造業は改善したもの、製造業が大企業、中小企業とも悪化し、全産業では▲三・六(前期比▲四・五)と三期ぶりに悪化した。

県内小売業の販売動向は、記録的な暖冬の影響がプラス・マイナス相半ばする中、全体としては伸び悩みの状況が続いた。百貨店では、主力のファッショングループ衣料に動きが見られず、3四半期連続で前年を下回ったほか、コンビニではホットメニューの不振などから前年実績に届かなかつた。自動車販売も、主力の普通乗用車の販売落ち込みが響いて、4四半期連続で前年実績を下回った。一方、ホームセンター、スーパーや、旅行販売では前年実績を確保した。

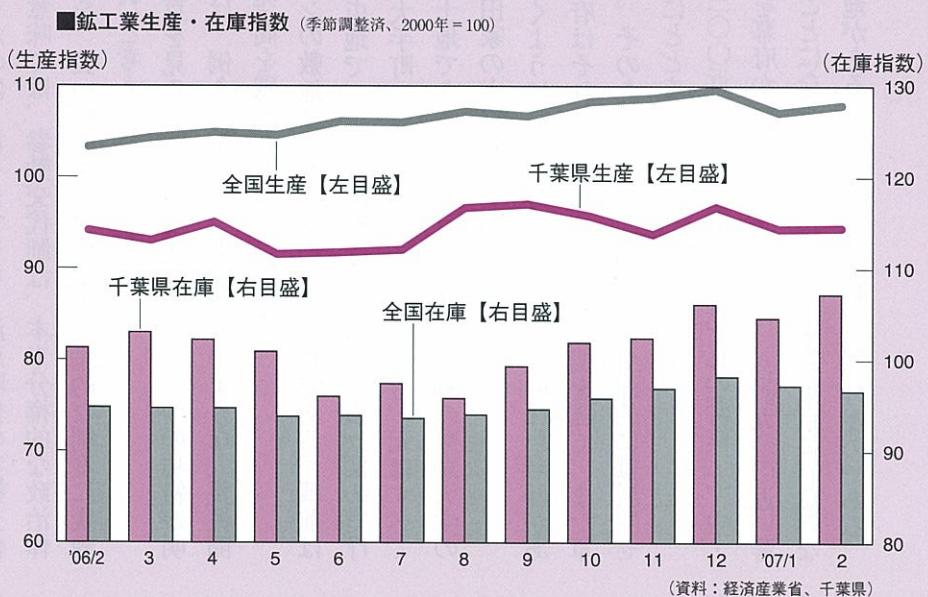
ここ3か月間(06年12月～07年2月)の県内新設住宅着工戸数は、前年同期比+一・九%の増加にとどまつた。これは、貸家が同+十五・二%、持家(注文住宅)も同+十三・三%増加したが、分譲住宅が同▲八・六%減少したことによるもの。一方、07年1～3月期の公共工事請負金額は、成田空港や成田新高速鉄道などの大型工事が全体を押し上げ、2四半期連続で前年同期を上回り、06年度累計でも前年度比+三・五%と四年ぶりに增加了。

千葉県鉱工業生産指数は、国内需要の伸び悩みを映じて、一進一退を繰り返している(11月九三・八→12月九六・八→1月九四・四)。

06年度設備投資実績額(07年3月調査)は、全産業で05年度実績比+四・八%増加した。製造業中小企業では期初計画比+四五・四%と大幅な上方修正となつた(千葉県企業経営動向調査)。

千葉県の有効求人倍率(季調値)は、横ばいで推移した(1月〇・九二倍→2月〇・九一倍)。2月のパートの新規求人数は製造業、飲食店などを中心に前月比+十五・四%増加し、雇用面の需給タイト感がさらには強まつた。

(関)



消費関連

県内小売業の販売動向は、記録的な暖冬の影響がプラス・マイナス相半ばする中、全体としては伸び悩みの状況が続いた。

すなわち、県内百貨店の07年1

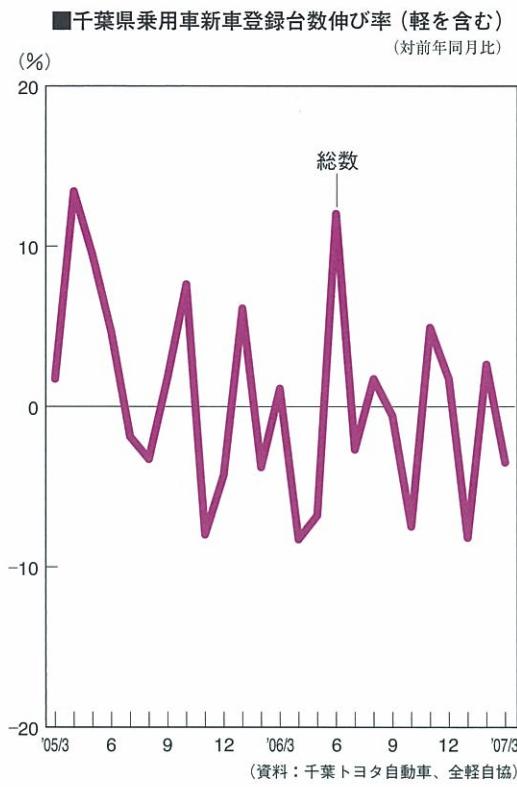
～3月期の売り上げは、主力のファッション衣料に動きが見られず、3四半期連続で前年を下回った。コンビニ売上は、ホットメニユーレが不振で前年実績に届かなかつた。外食産業では飲酒運転への厳罰化の強まりによる宴会客数の落ち込み、家具販売も競合激化な

どからそれぞれ弱含みの動きが続いた。自動車販売も、軽・高級車増加の基調が続く中、普通乗用車の販売落ち込みが響いて、4四半期連続で前年実績を下回った。

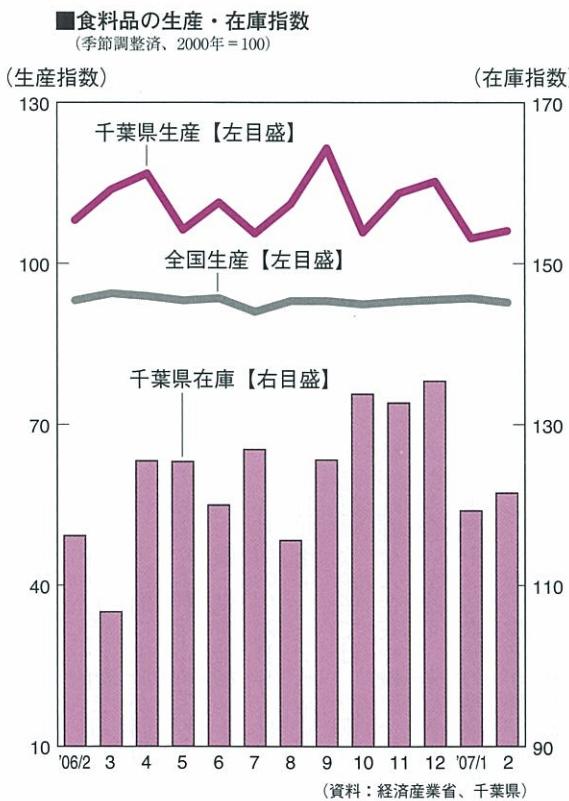
一方、ホームセンターは、主力の園芸・DIY用品などが大幅増加し前年実績を確保した。スペー

ーの販売額も、1月以降は前年実績を上回った。旅行販売は、国内旅行が堅調に推移したことから、全体としては前年実績並みとなつた。南房総地域では、ちばDCによるプラス効果もあって、観光施設では入場者数が前年を上回った

（関



食料品



この間、収益が悪化したとする向きが大幅に増加した（収益BSI・同▲一〇・三→二三・四）。これは、食用油や小麦粉、砂糖など原材料費が高騰する中、販売価格への転嫁は、需要の伸び悩みを映して一部にとどまつたことによるもので、原価率の高い製粉、製油

1月に発覚した不二家問題を受けて、改めて自社の品質管理体制を強化する先も見られた。「安全」基準からさらに一步踏み込んで、「安心感」を追求するような商品づくりを目指す動きが広がっている。

（嘉藤）

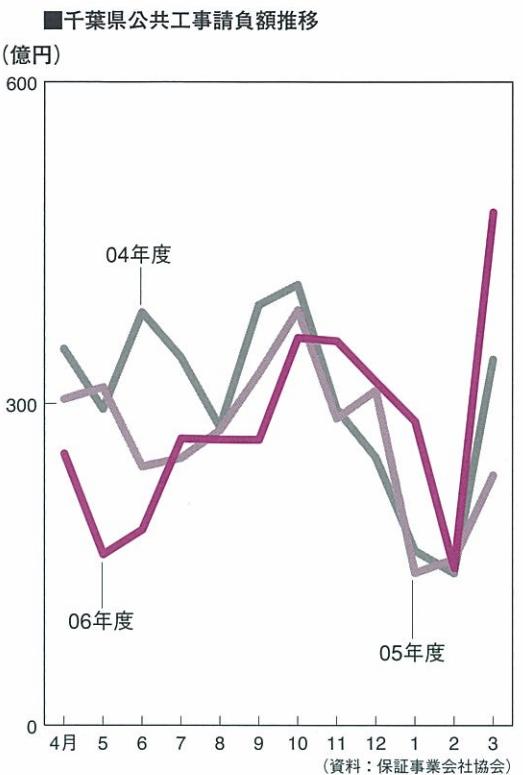
など食品素材メーカーを中心的に、収益が減少した先が多かった。

加工食品メーカーでは、仕入先

住宅・建設

なっている。

県内の06年12月～07年2月の新設住宅着工戸数は、分譲住宅が同▲八・六%減少したことが響いて、前年同期比+二・九%の増加にとどまつた（前年同月比+06年12月+五・七%→07年1月+八・一%→2月▲十一・六%）。東京近郊ではさらなる地価上昇を見込んでマンション販売を遅らせることで、駅から遠い物件では、安くても「売れないと」物件が増加しており、需給はやや軟化傾向と



機械

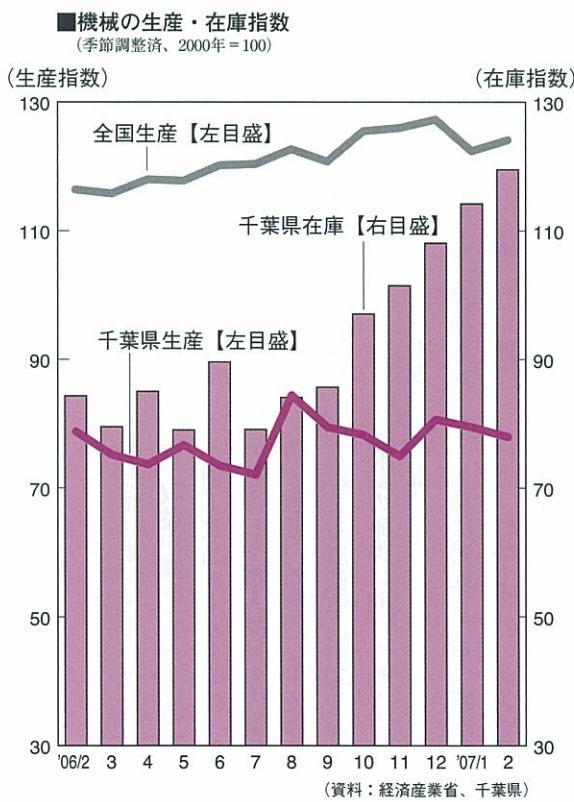
輪向け製品の生産が始まる7月以降には、本格的に生産が回復するとの見方が大勢を占めている。

県内一般・精密機械メーカーの

向は、06年夏にピークとなつたあと、年末にかけては水準をやや切り下げるものの、07年入り後は底堅い状態が続いている。

県内建設業の中には、売り上げの確保に向けて、採算を度外視した安値入札を行う企業も見られ、収益が悪化した先が増えている。その結果、06年度の建設業の県内倒産企業数は一二八社（前年度比+二〇・八%）と大幅増加した。

（酒井）

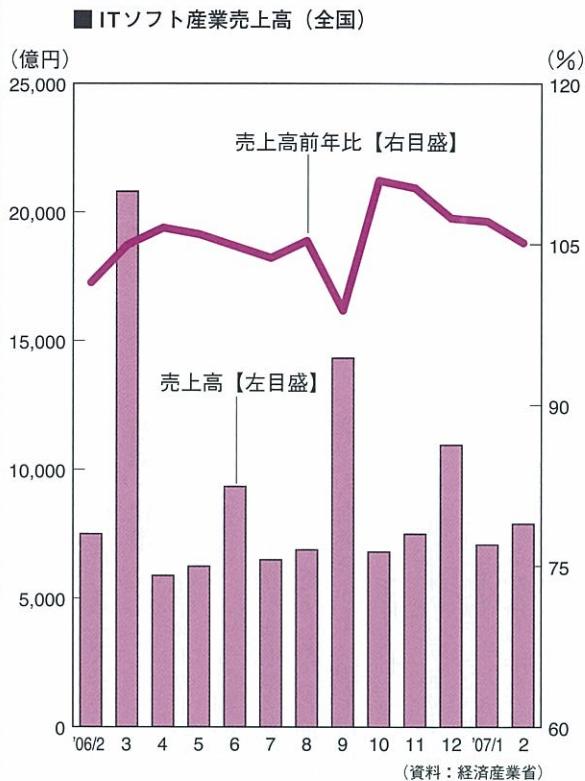


ITソフト

落したものの、金融・証券業などの大型プロジェクトは増勢が続いている。

情報サービス業（全国）の1～2月の売上高は、五ヶ月連続で前年同月を上回った（07年1月+7・-1%→2月+5・-1%）。主力の受注ソフトウェアでは、金融業向け、通信業向けが増加し、ソトウェアプロダクトの中ではゲームソフトが好調だった。

県内ITソフト企業の1～3月期の受注案件の増加からシステムエンジニア（SE）不足が続いている。スキルのあるSEの時給は前年比+四割上昇した。こうした人件費上昇はITソフト企業にとって足元では収益の悪化要因となっているが、需要が伸びていることもあって、受注単価への転嫁は少しずつ図れている。また、収益確保に向けて、個別プロジェクトの採算チェックを厳格化する動きも強まっている。（嘉藤）



窯業・土石

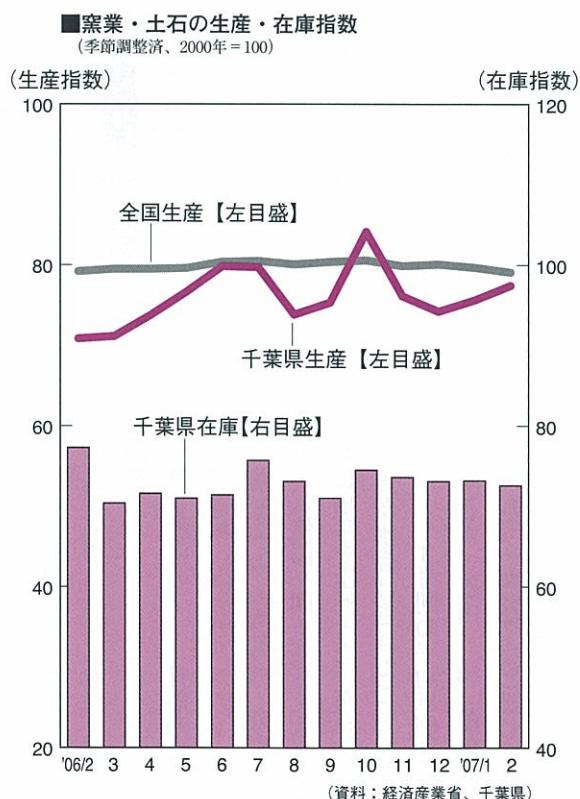
加。公共工事向けがやや増加したほか、JR千葉みなと駅周辺のマシンシヨン向けも好調。

県内の主要協同組合（北部・西部・中央）の1～3月期の生コン出荷量は、民間からの受注増加を映して、12四半期連続で前年を上回った（前年同期比+06年7～9月期+九・八%→10～12月期+十・六%→07年1～3月期+十三・七%）。各組合では原材料価格の上昇に伴い、4月からの生コン出荷価格を五%前後引き上げた。

千葉中央協同組合（千葉・市原・袖ヶ浦）の1～3月期の出荷量は、前年同期比+三一・四%増

千葉西部協同組合（浦安・市川・船橋など）の1～3月期の出荷量は、同+五・七%増加。最近は、八千代市や印西市のマンション向け出荷が伸びている。

千葉北部協同組合（柏・松戸・野田など）の1～3月期の出荷量は、同▲十六・六%減少。これは天候不順による工事の遅れが原因で、需要自体は堅調との見方。行きも、TX沿線の商業施設やマンション建設が一巡するまでは、堅調に推移する見通し。（酒井）



石油・化学

産業向けは落ち込んでいる。(関)

石油・化学

県内石油・化学メーカーの原材料

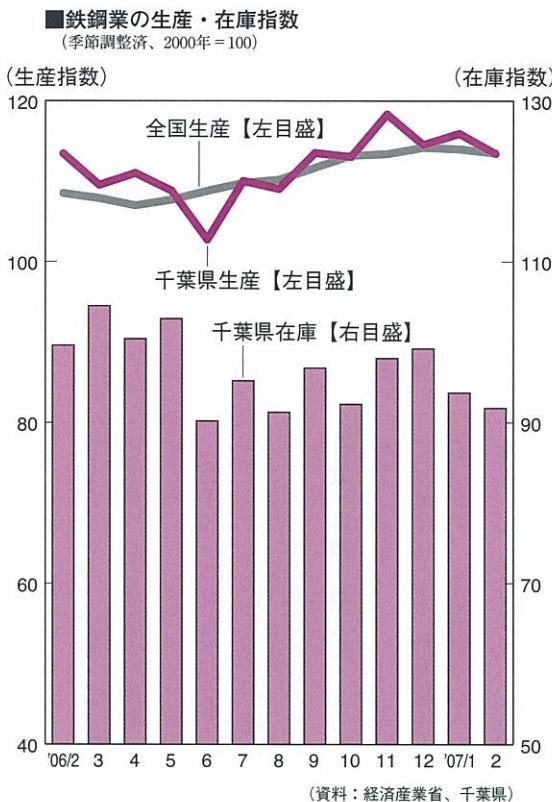
鉄鋼

1～3月期の県内高炉メーカーの粗鋼生産量は、世界規模の鋼材需要増を映して、既往最高水準の操業が続いた。

県内の中小鉄鋼・非鉄金属メーカーの生産は、主に国内の鋼材需要の伸び悩みから「悪化」とする向きが強まつた(鉄鋼・非鉄金属生産BSI)。10～12月(○→1～3月)の出荷は、数量が三万八七六〇t(前年同期比+十五・五%)、平均単価が一一〇円/kg(同▲三七・五%)となり、出荷金額は四二・七億円と同▲二七・六%減少した。記録的な暖冬で、ネギ、ニンジン、ダイコン、キャベツなどの生育が早まり、出荷が1～2月に集中したことが、価格の大幅な低下を招いた。豊作で梱包・運搬コストもかさみ、ダイコン、キャベツ

を販売価格に転嫁できない状況が続いて、収益が落ち込んだ先が増加した(同販売価格BSI)。ナフサ価格は、4月以降はじわじわと上昇しており、4～6月期は再び仕入価格が上昇し、収益を下押しするとの見方が多い。

(酒井)



農業・漁業

農家の手取収入は、例年の五割程度にまで落ち込んでいる。(嘉藤)

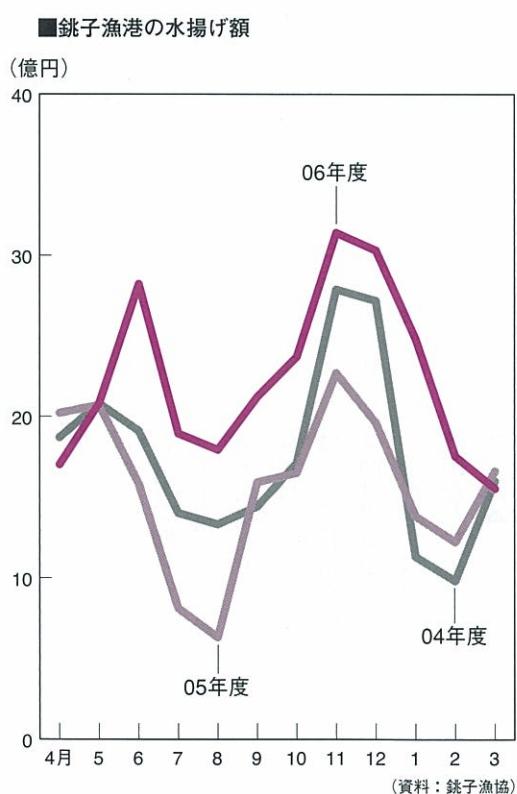
漁業

農業

07年1～2月の千葉県産主要野菜一〇品目の東京中央卸売市場への出荷は、数量が三万八七六〇t(前年同期比+十五・五%)、平均単価が一一〇円/kg(同▲三七・五%)となり、出荷金額は四二・七億円と同▲二七・六%減少した。記録的な暖冬で、ネギ、ニンジン、ダイコン、キャベツなどの生育が早まり、出荷が1～2月に集中したことが、価格の大幅な低下を招いた。豊作で梱包・運搬コストもかさみ、ダイコン、キャベツ

勝浦漁港の1～3月期の水揚げは、数量(二六三八t)と金額(十五・〇億円)ともに前年を上回った。

(嘉藤)



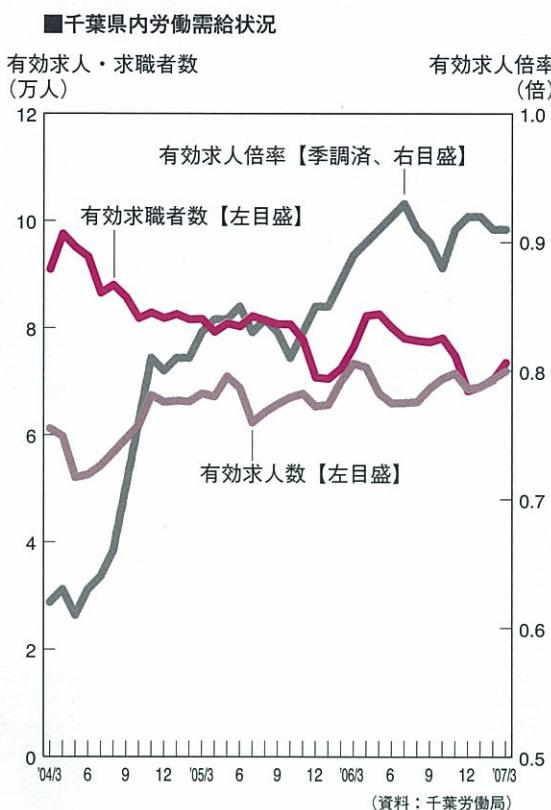
雇用

千葉県の07年入り後の有効求人倍率（季調済）は、横ばい推移した（06年10月～12月期〇・九〇倍→07年1月〇・九二倍→2月〇・九一倍）。

2月のパートの新規求人数は、製造業、飲食店などの雇用意欲の強まりから前年比+十五・四%と大幅増加した。一方、同月のパートの求職者数は同▲一・〇%減少し、パート雇用市場の需給タイト感はさらに強まっている。

雇用BSIも十一期連続で「不足」超となり、雇用不足感を訴える向きがさらに強まった（06年10月～12月期六・七～07年1月～3月期七・八）。県内企業の中には、パート時給を引き上げても希望人数まで集まらない先や、ライバル店に社員を引き抜かれた先など雇用確保で苦労している先が多い。また、人手不足が恒常化している企業では、受注案件を下請けに回さざるをえなくなり利益率が下がった先や、本部の人員を店舗にシフトしてたため本部機能が低下した先が見られるなど、雇用不足が経営へ与えるマイナスの影響がじわりと広がっている。

（嘉藤）



足」超となり、雇用不足感を訴える向きがさらに強まった（06年10月～12月期六・七～07年1月～3月期七・八）。

県内企業の中には、パート時給を引き上げても希望人数まで集まらない先や、ライバル店に社員を引き抜かれた先など雇用確保で苦労している先が多い。また、人手不足が恒常化している企業では、受注案件を下請けに回さざるをえなくなり利益率が下がった先や、本部の人員を店舗にシフトしてたため本部機能が低下した先が見られるなど、雇用不足が経営へ与えるマイナスの影響がじわりと広がっている。

企業経営動向調査（BSI）

07年1～3月期の県内企業の業況判断BSI（全産業）は▲三・六と、前回（06年10～12月期）比▲四・五悪化し、三期ぶりに「悪化」超となつた。非製造業は改善

したが、製造業の悪化が響いた。先行き（4～6月期）は▲二・〇と実績比+一・六改善見込み。

売上BSI（同）は▲一・二（前回比▲〇・三）と二期連続で「減少」超となつた。非製造業は改善したが、製造業は悪化し、七期ぶりの「減少」超となつた。収

益BSI（同）は▲四・〇と前回比+二・一改善したが、水準は五期連続で「悪化」超となつた。販売価格BSI（同）は▲〇・二

（前回比▲〇・五）と五期ぶりに悪化し、「低下」超となつた。仕入価格BSI（同）は十六・六と前回比▲三・六改善したが、引き続き大幅な「上昇」超となつた。

06年度堅壁投資実績額（同）は、05年度比+四・八%となつた。製造業は同▲十二・六%減少したが、非製造業では同+十八・七%増加した。

雇用BSI（同）は七・八（前回比+一・一）と十一期連続で「不足」超となつた。

（嘉藤）

■企業経営動向調査 売上実績・見通しBSIの推移

